
渡部富哉氏による「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」（2013年2月14日作成）を「盗作」と公表したことに対する反論

山野 晴雄

1. これまでの渡部氏と山野との間の経緯

①2018年4月3日、渡部氏より「講演会のお知らせ」の案内葉書が届く。

- ・葉書の内容は、4月21日に明治大学で開催される現代史研究会主催の渡部氏の講演会の案内で、演題は「解明されたゾルゲ事件の端緒－日本共産党顧問真栄田（松本）三益の疑惑を追って－」であった。
- ・その葉書の余白に赤字で「貴方の「高倉輝年譜」は盗作であると報告します。高倉の遺族も情報元と当日参ります。抗議と反論の時間を充分とってあります」と書かれてあった。

②2018年4月10日、渡部氏に「年譜」を「盗作」とされることは「心外」である旨の手紙を出す。

- ・日本近現代史の一研究者として「盗作」とされることは看過できないことから、講演会の前に渡部氏に、以下のような内容の手紙を書いた。
- ・（2015年の秋頃）渡部氏から、佐藤定夫さんを介して、メールをいただき、私のホームページに掲載した「タカクラ・テル年譜」（2013年2月14日作成）では、1936年の項で「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」の記述について、何を典拠にそのような記述をしたのか、という問い合わせがあったので、私は、「現代史資料」ゾルゲ事件4の「宮城与徳第5回被疑者訊問調書」の記述に従ったことを回答した。
- ・これに対して渡部氏からは、勉強不足であるとの趣旨のメールをいただいた記憶がある（その後、パソコンが壊れ、メールの記録は取っていなかったため、メールの日時、文言について、正確に記述できない）。
- ・私は、ゾルゲ事件とタカクラとの関わりについては、文献は集めていたものの、きちんとまとめることはしていなかったため、渡部氏の指摘を受けとめ、また、高倉太郎さんから、2015年9月3日付で手紙をいただいていたことから、年譜をより正確なものにしていくために、1936年の項の「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」の記述を削除し、高倉太郎さん作成の年譜に従い、1935年の項に、「この年、のちのゾルゲ事件の関係者、宮城与徳と会う」という記述に訂正した。また、高倉太郎さんから指摘を受けた正誤表にしたがって、年譜に修正を加えた。
- ・その修正した年譜が、2015年11月17日改訂の「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」で、現在、ホームページに掲載されているものである。（正誤表の見落としがあり、高倉太郎さんの生年月日が1925年9月27日のままになっている。正確には9月29日である）。そして年譜については、年譜の最後に「*高倉太郎「年譜タカクラ・テル」（2014年3月14日最終稿）をもとに加筆・修正を加えて作成したものです。高倉太郎氏に感謝いたします。」と記載している。
- ・私がホームページに「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」を掲載したのは、より多くの人にタカクラのことを知っていただくとともに、誤りの指摘があれば訂正し、より正確な年譜を作成し、私のタカクラ研究に活かしていきたいと考えたからである。
- ・渡部氏の指摘を受けとめ、年譜を訂正することが、そして高倉太郎さんの「年譜タカクラ・テル」にも依拠していることを記載しているにもかかわらず、それを「盗作」だと渡部氏が断定されるのは心外と言わざるを得ない。

③2018年4月21日、講演会での渡部氏の講演内容

- ・講演では渡部氏は、私の手紙については一切無視し、私の年譜について、山野晴雄は、と名指しをした上で、タカクラ・テルの長女・森田信さんからコピーしてもらったものと「1行を除いてすべて100%自分の研究成果のようにネットに掲載している」と、私の年譜のコピーを振りかざして非難した。

④渡部富哉『解明されたゾルゲ事件の端緒－日本共産党顧問真栄田（松本）三益の疑惑を追って－』（社会運動センター、2018年）の記載内容

- ・2013年2月14日作成の「タカクラ・テル年譜」について、「筆者が高倉テルの娘森田信からコピーしてもらったものと1行を除いて100%自分の研究の成果のようにネットに掲載している。これは転用ではなく、盗作と言うべきである」。
- ・「執筆者山野晴雄によると、「大学の卒論が高倉テルだった」という。許しがたいのは「備考欄」に至るまで自分の作品としてその年譜のすべてを転載していながら、山野が削除して独自の見解を挿入していることだ。この箇所は高倉テルが最晩年に追記した高倉テルの痛恨の反省の思いをこめて追記した1行である。高倉は1936年の冒頭に、「前年のちのゾルゲ事件の関係者、宮城与徳と会う。（中略）」と書いている。「前年」とは本文でも詳述したように高倉テルが宮城与徳と会ったのは1936年のことではなく、1935年のことであると日記に記したのだ」。
- ・「高倉テルにとって最も重要な箇所を山野晴雄は削除して「高倉テルの年譜」の中で最も肝心な箇所を盗用者は、「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」と書き換えてしまった。既に3年前、高倉テルの遺族にも相談の上、山野にその箇所が高倉テルにとってどんな意味を持つものかを説明し、本人に抗議したが、「検討の上書き換える」という返事があった。本文執筆に当たって再度確認したが（2018年3月27日現在、訂正はされていない。二人の高倉テルの孫娘姉妹に相談したが、遺族は当然「許しがたい」と立腹していたが、これは本文の要の箇所でもあるから一筆しておく。これは研究者としてあるまじき破廉恥な盗作である」。

⑤2018年4月21日、渡部氏に以下のような内容の反論の手紙を出す

- ・私は、4月21日当日の講演の中では、渡部氏からは、現在の2015年11月17日改訂の「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」では、1935年の項に、「この年、のちのゾルゲ事件の関係者、宮城与徳と会う」と正しく訂正されていると断ったうえで、官憲当局の訊問調書を鵜呑みにして1936年の項に「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」と記載した2013年2月14日作成の「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」は問題がある、と批判されるのであれば、それは事実であり、その批判は受けるつもりであった。
- ・私は、渡部氏が事前に差し上げた手紙について触れることを期待したが、講演では、私の手紙は一切無視し、私の年譜について、名指しをした上で、タカクラ・テルの長女・森田信さんからコピーしてもらったものと「1行を除いてすべて100%自分の研究成果のようにネットに掲載している」と、私の年譜を振りかざして非難した。
- ・同趣旨のことは、渡部富哉『解明されたゾルゲ事件の端緒－日本共産党顧問真栄田（松本）三益の疑惑を追って－』（社会運動センター、2018年）31頁にも記載があった。
- ・私が高倉太郎さんからいただいた年譜は、同書44頁に写真で紹介されている1936年の項にある「前年のちのゾルゲ事件の関係者宮城与徳と会う」という年譜ではない。私の手許にある年譜はワープロで打たれてあり「高倉太郎氏作成」とあり、1935年の項に「この年、のちのゾルゲ事件の関係者、宮城与徳と会う」と記載されているものである。その年譜では1891年から戦前の1945年8月15日までの項目数は105項目、私の2013年2月14日作成の年譜は228項目である。私の掲載項目数は高倉太郎さんが作成された年譜と比べても2倍以上になっている。
- ・また、同書31頁には、「執筆者山野晴雄によると、「大学の卒論が高倉テルだった」という」

とあるが、誤りである。私が渡部氏と初めてお目にかかったのは共通の友人である佐藤定夫さんの紹介で、2009年11月に一橋大学で開催された渡部氏の講演会の終わったあとで、そのとき私は、「いまタカクラ・テルの伝記を書くために資料を集めています」とお話しをしたが、「大学の卒論が高倉テルだった」と話したことはない。私が卒論に書いたものは、抗日民族統一戦線に関するものである。

- ・さらに、同書31頁には、3年前に「山野にその箇所が高倉テルにとってどんな意味を持つものかを説明し、本人に抗議したが、「検討の上書き換える」という返事があった。本文執筆に当たって再度確認したが（2018年3月27日現在、訂正されていない。…）」とあるが、すでに渡部氏への手紙でも明らかにしたように、渡部氏の指摘と「年譜タカクラ・テル」（2014年3月14日、最終稿）、高倉太郎さんからの2015年9月3日付の手紙（正誤表）をもとに誤りを訂正し、2015年11月17日改訂「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」として現在、ホームページに掲載されている。「訂正はされていない」のではなく、訂正されたものが掲載されている。
- ・渡部氏が講演会でも指摘されていたように、訊問調書など官憲文書を読むときには、特高は1つの筋書きで書かせているので、裏をきちんと取らないといけない、というのは、肝に銘じておきたい。私の不勉強で一時期、年譜の1936年の項に「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」と記載し、タカクラが1935年の項に「この年、のちのゾルゲ事件の関係者、宮城与徳と会う」と記述した意味を理解していなかったことは、率直に反省しなければいけないと思っている。
- ・しかし、私の作成した「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」を「盗作」だとして、訂正しているにもかかわらず「訂正されていない」とされることには承服できない。
- ・私は、タカクラ年譜に誤りの指摘があれば訂正し、より正確な年譜を作成していきたいと思っている。また、渡部氏の貴重な研究の成果についても、私のタカクラ研究に活かしていきたいと考えている。

⑥2018年6月21日、渡部氏より「講演会のお知らせ」の案内葉書が届く。

- ・葉書の内容は、7月21日に専修大学で開催される現代史研究会主催の渡部氏の講演会の案内で、演題は「解明されたゾルゲ事件の端緒－日本共産党顧問真栄田（松本）三益の疑惑を追って－」（前回に続き第2回目）であった。
- ・葉書の余白に、「今回は6時まで教室を使えるので、貴方の抗議を皆さんの前で展開して下さい。慶応大学の松村高夫教授が盗作問題で小林英雄（注；英夫の誤り）教授と裁判中です。松村さんの前で意見を述べて下さい」とあった。

2. 私のタカクラ・テル研究と「タカクラ・テル年譜」

①自由大学研究からタカクラ評伝研究へ

- ・大学院時代は、1920年代から30年代にかけて展開された地域民衆の自己教育運動として知られる自由大学運動について研究に取り組み、修士論文「自由大学運動の研究」をまとめた。自由大学運動の中で中心的な役割を果たしたのが土田杏村とタカクラ・テルであった。修士論文をまとめる過程で、タカクラ・テルさんのお宅に何度もうかがい、聞き取り調査をした。そして、1981年に自由大学運動60周年記念集会を長野県上田市で開催し、そのときにはタカクラ・テルさんも90歳の高齢にもかかわらず出席された。
- ・60周年記念集会を機に、高倉太郎さんからは「父の伝記をまとめられないだろうか」というお話もあり、タカクラの文献・史料を集める作業から始め、研究の中心を自由大学からタカクラに移していった。

②「タカクラ・テル著作目録」と「タカクラ・テル年譜」

- ・収集した文献や史料を少しずつ整理し、タカクラ・テルさんのお宅にもうかがい、聞き取り調査も継続しながら、「著作目録」と「年譜」の作成を進めていった。

- ・それまでタカクラに関する著作目録は、小林利通さんの簡単なもの（小林利通編「高倉テル氏著作および関係主要文献目録」長野県近代史研究会『近代研究たより』第26号、1975年）と、年譜はタカクラ・テル名作選の『大原幽学』（理論社、1953年）に掲載された「タカクラ・テル年表（略譜）」しかなかった。
- ・高倉太郎さんからは、ときどき、タカクラ・テルに関する文献や史料のコピーを送っていた。
- ・1984年7月6日付高倉太郎さんの手紙
先日、ある出版社から「タカクラ・テル伝」を書けという要請がありました」が、「現在の私の健康状態が許さないこと」などから、「私はテル研究者に史料を提供することだけに限り、「タカクラ・テル伝」の完成は後世の人材にゆだねる旨を書き送ったが、「私は、あなたにもその人材の一人」とお見受けしており、「これから機会あるごとに資料をお送りするつもりで」あり、「これは父も了承して」いるとの趣旨の手紙をいただく。
- ・私も不完全なものであったが、「著作目録」「年譜」をまとめると高倉太郎さんのもとに送ったりした。
- ・1986年8月14日付高倉太郎さんの手紙
山野作成の「タカクラ・テル著作表のおかげで、私はどんなに助かっているか分か」らないとし、「立命館文芸会の同人雑誌「衣笠」から、父が文壇から追い出されるいきさつを、当時の「改造」もとに調べても分からない点があると言ってきたが、あなたの著作表のおかげで、きれいに解決した」という趣旨の手紙をいただく。
- ・1987年12月3日付高倉太郎さんの手紙
「先月十四日（土）、十五日（日）から、父の故郷、高知県大方町で、教育委員会主催、上林曉展、タカクラ・テル展が開かれて」いるが、「そのさい、私が資料提出を求められ、あなたが精力的に調査してくださった資料をもとに年譜を作り直し、著作といっしょに送りました。地元からの電話によると、関係者は、ちょっと興奮ぎみでした。これも、すべて、あなたのお力のおかげ」であるとし、「年譜には、多少新しい事実を付け加えましたので、まだおいでの節に、お目にかけます」という趣旨の手紙をいただく。
- ・以上、高倉太郎さんからの手紙からも知られるように、私と高倉太郎さんとは「著作目録」「年譜」、資料をやりとりしていた。そして、お互いに「年譜」をより詳しく、正確なものにしてきたのである。

③山野晴雄作成「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」の変遷

(1)「タカクラ・テル 略年譜（戦前、1891～1934）」（手書き）

これは、「タカクラ・テルと自由大学運動」を自由大学研究会第7回夏季研究例会（1979年9月）と日本社会教育学会第26回研究大会（1979年10月）で研究発表したさいに作成した資料である。自由大学運動に関わった時期が中心の年譜である。

(2)「タカクラ・テル（高倉輝）年譜（1891～1986）」

これは、中央大学法学部の授業「日本政治史料講読」（1999年から2005年まで）で配布した資料である。授業の参考資料として年譜を作成したものであるが、この年譜では、「現代史資料」ゾルゲ事件4の「宮城与徳第5回被疑者訊問調書」を典拠に「1936年」の項に「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」とし、渡部氏より指摘があるまで、誤った記載をすることになった。まだゾルゲ事件に関しては調べていなかったこと、タカクラ・テルさんの聞き取りをしたときのノートもよく精査していなかったことが原因であった。

(3) 2013年2月14日作成「タカクラ・テル（高倉輝）年譜（1891～1986）」

これは、ホームページを開設したさいに、高倉太郎さんから送っていただいた「タカクラ・テル年譜（略歴）」や中央大学の授業で使用した年譜、その後の資料調査などをもとに作成したものである。この年譜でも、誤りに気づいていなかったため、「1936年」の項に「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」としたままになっている。

(4) 2015年11月17日改訂「タカクラ・テル（高倉輝）年譜（1891～1986）」

これは、2015年の秋頃、渡部富哉氏よりメールで、1936年の項で「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」の記述について、何を典拠にそのような記述をしたのか、

という問い合わせがあり、問題があるとの指摘を受けたこと、また、高倉太郎さんから新しい年譜、「年譜タカクラ・テル」（2014年3月14日、最終稿）が送られていたこと、さらに、高倉太郎さんから、次のような内容の手紙とともに、23項目にわたる「正誤表」が送られてきたことから、2013年2月14日作成の年譜を改訂し、2015年11月17日にホームページに掲載したものである。この改訂した年譜では、1936年の項の「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」の記述を削除し、高倉太郎さん作成の年譜にしたがい、1935年の項に、「この年、のちのゾルゲ事件の関係者、宮城与徳と会う」という記述に訂正した。現在、ホームページに掲載されているのが、その年譜である。

・2015年9月3日付高倉太郎さんの手紙。

「あなたがインターネットに発表されましたタカクラ・テル年譜を今ごろになって届けてくれた人がおまして、あなたのテル研究がここまで進んでいたことを知り、おどろくとともに、心から感謝しております。私の知らなかった父の活動の細部にふれて、私自身、ひじょうな幸福感にひたることができました」としたうえで、「ただ、失礼とは思いましたが、気づいた点を正誤表にしてみました。赤で書いたところを訂正すれば、もっと分かりやすくなると思ったからです」と、正誤表の付いた手紙をいただく。

3. 2013年2月14日作成の「年譜」が訂正されていないとする渡部氏の主張について

- ・2013年2月14日作成の「年譜」において、1936年の項で「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」と記述したことについては、渡部氏の指摘もあり、不正確であったと判断し、2015年11月17日改訂の年譜では、1936年の項の「このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる」の記述を削除し、高倉太郎さん作成の年譜にしたがい、1935年の項に、「この年、のちのゾルゲ事件の関係者、宮城与徳と会う」という記述に訂正した。
- ・渡部氏には、4月21日の講演会前に手紙を出し、上記のように、2015年11月17日改訂の年譜で訂正し、現在、ホームページにも掲載している旨を伝えた。
- ・ところが、講演会では、私の手紙をいっさい無視し、『解明されたゾルゲ事件の端緒－日本共産党顧問真栄田（松本）三益の疑惑を追って－』（社会運動センター、2018年）においても、「本文執筆に当たって再度確認したが（2018年3月27日現在、訂正はされていない。」と述べている。
- ・渡部氏は、私の「タカクラ・テル年譜」を検索するにあたって、おそらく、yahooで検索したさい「タカクラ・テル年譜」で検索し、そこに出てくる「タカクラ・テル（高倉輝）年譜（1891～1986）－Biglobe（Adobe PDF）－htmlで見る」をクリックすると現在でも、2013年2月14日作成の年譜のPDFが出てくることから、訂正されていない、と判断されたものと考えられる。
- ・これは、「キャッシュ」であって、ブラウザが一度表示したデータを保存する機能で、キャッシュ後ページ内容が変更されると、最新の内容が正しく表示されないということに気づかなかったであろう。
- ・渡部氏は、私のホームページ「人間・生きる」（http://www7b.biglobe.ne.jp/~ningen_ikiru/）で直接確認することをしなかったとしか考えられない。

4. 2013年2月14日作成の「年譜」を「盗作」とする渡部氏の主張について

- ・2018年4月21日の渡部氏の講演会後、タカクラ・テル関係の資料を整理したところ、1936年の項に「前年、のちのゾルゲ事件関係者、宮城与徳と会う」と記載された、高倉太郎氏作成の手書きの「タカクラ・テル年譜（略歴）」を見つけたので、2013年2月14日作成の「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」と記載事項を1891年から1936年までの45年間について比較した。（別紙）
- ・渡部氏は、「1行を除いてすべて100%自分の研究の成果のようにネットに掲載している。これは転用ではなく、盗作と言うべきである」と非難している。
- ・山野作成年譜が高倉太郎作成年譜の「盗作」ではない理由は、下記のことから言える。

- (1) この時期に限っても、私の自由大学研究の成果、伝記研究の成果をとりいれた結果、山野作成年譜の記載項目数は増えている。記載項目数は、1891年から1936年までで、高倉作成年譜は80項目、山野作成年譜は167項目である。「盗作」ならば記載項目数はほぼ変わらないはずである。
- (2) 山野作成年譜の1897年の項に「村の助役を勤めたことのある父がテルの年齢を普通より1年早くごまかして南郷尋常小学校に入学させる」とあるが、高倉作成年譜は1897年の項に単に「南郷尋常小学校に入学」とあるだけである。これは、高倉太郎さんからコピーさせていただいたタカクラ・ツウ「自伝草稿」(1955年)の「父親が誕生日おごまかして、人よりも一年はやく入学させました」との記述をもとに1年早く尋常小学校に入学したことを記載したものである。その後、高倉太郎さんは、「年譜タカクラ・テル」(2014年3月14日最終稿)において、山野作成年譜及び「若き日のタカクラ・テルー作家への道ー」(桜華女学院高等学校『紀要』第4号、2008年)をふまえ、1895年の項にはあるが、「村の助役を勤めたことのある父親が、テルの年齢をふつうより1年早くごまかして南郷尋常小学校に入学させる」との文言を入れたのである。なお、尋常小学校入学年については、山野と高倉太郎さんとは見解が異なっている。
- (3) タカクラの宇和島中学校卒業年についても、高倉作成年譜では1909年となっているが、山野作成年譜は1908年と見解が異なっている。「盗作」ならば、高倉太郎作成年譜にしたがい1909年になっているはずである。これも、タカクラ・ツウ「自伝草稿」に「宇和島の叔父は哲学には絶対反対だった。それやこれやで、ごたごたして、けっきょく、その年は、一年、どこの試験も受けなかった」との記述などをもとに、「医者になって金儲けをしろと主張する叔父と意見が合わず、1年間上級の学校をどこも受けず、家の手伝いをする。」と記載したもので、高倉太郎作成年譜には、そのような記載はない。
- (4) また、自由大学関係については、高倉作成年譜は1921年と22年にそれぞれ1項目ずつ記載があるが、山野作成年譜では、31項目にわたって記載がある。「盗作」ならば2項目でなくてはならないはずである。ここには自由大学研究の成果が反映されている。
- (5) 山野作成年譜の1927年の項には「12月20日、許可により輝豊を輝に改名」とあるが、高倉太郎作成年譜には記載がない。その後、高倉太郎さんは、「年譜タカクラ・テル」(2014年3月14日最終稿)において、1927年の項に「12月、高倉輝豊を高倉輝と改名」と記載した。
- ・高倉太郎さんとは、「著作目録」「年譜」資料のやりとりを行ってきており、年譜をより詳しく、正確にするために協力してきた。高倉太郎さんからは、紹介したように、「あなたのテル研究がここまで進んでいたことを知り、おどろくとともに、心から感謝しております。私の知らなかった父の活動の細部にふれて、私自身、ひじょうな幸福感にひたることができました。」という手紙をいただいたことはあっても、「盗作だ」という非難の手紙はいただいていない。
 - ・なお、諸史料、文献、聞き取り調査などをもとに最新の「タカクラ・テル(高倉輝)年譜」を各記載項目の出典を明らかにしたうえで2018年7月17日改訂としてホームページに掲載した。

以上

(2018年7月22日脱稿)

* 2020年5月23日に私のホームページは<http://www7b.biglobe.ne.jp/~takakuraterukenkyu/>に移行し、さらに2025年8月20日に<https://jiyudaogakukenyu.net/>に移行した。また、現在、ホームページに掲載しているタカクラ・テル年譜は2025年5月25日改訂のものである。(2025年8月23日)